

ふくい

外来昆虫 ハンドブック



福井市自然史博物館

2025

目次

外来種とは

外来種とは・・・・・・・・・・・・・・・・	2
外来種が引き起こす問題・・・・・・・・	3
外来生物法と特定外来生物・・・・・・・・	4
外来種とのつきあい方～私たちにできること～	6

外来種の昆虫

ウスグモスズ・・・・・・・・・・・・・・・・	7
アカハネオンブバッタ・・・・・・・・	8
ムネアカハラビロカマキリ・・・・・・・・	9
シタベニハゴロモ・・・・・・・・	10
外来種のゲンバイムシ類（アワダチソウゲンバイ・プラタナスゲンバイ）	11
マツヘリカメムシ・・・・・・・・	12
キマダラカメムシ・・・・・・・・	13
トウキョウヒメハシムシ・・・・・・・・	14
コルリアトキリゴミムシ・・・・・・・・	15
クビアカツヤカミキリ・・・・・・・・	16
ツヤハダゴマダラカミキリ・・・・・・・・	17
ブタクサハムシ・・・・・・・・	18
タイワンタケクマバチ・・・・・・・・	19

国内で分布を拡大する昆虫

国内で分布を拡大する昆虫・・・・・・・・	20
ヒラズゲンセイ・・・・・・・・	21
ムラサキツバメ・・・・・・・・	22
イチジクヒトリモドキ・・・・・・・・	23
付録：昆虫分布データ・・・・・・・・	24

昆虫の解説ページの見方

- 1 生態写真
- 2 標本写真
⇒ 写真の大きさは実寸大。縮小の場合は倍率を表示。
- 3 和名・分類
- 4 種の特徴
⇒ 大きさ（頭部から翅の先端までの長さ。チョウとがでは、左右の前翅を広げた時の長さ）、成虫が見られる時期、原産地、生息環境。
- 5 種の解説
⇒ 生態的特徴、国内や県内への侵入時期、分布状況。
- 6 県内の分布確認状況
⇒ 標本、文献による情報と目撃情報で色分けして表示。
⇒ 2024年に実施した市民参加型調査「ふくいむしむし大調査！」で得られた情報は目撃情報として扱った。
- 7 当該種が及ぼす被害に関する情報
- 8 外来種別の見出し
足 足羽山で確認されている 特 特定外来生物
- 9 二次元バーコードを読み取ると、動画をみることができます



はじめに

このたび、2024年度笹川科学研究助成を受け、「ふくいの外来昆虫ハンドブック」を刊行することになりました。

近年、地域の自然環境や人間の生活に悪影響を及ぼす侵略的外来種が全世界で多大な経済的損失をもたらしていることが報告されており、国内および国際的な協力による侵略的外来種の対策の必要性が指摘されています。

福井県においても、アライグマやアメリカザリガニのように地域の生態系や農林業など、私たちの生活に悪影響を及ぼす外来種が生息域を拡大しており、その対策は重要な問題となっています。さらに、最近の物流の活発化や地球温暖化の進行に伴い、今後も私たちの生活に悪影響を及ぼす外来種の侵入が警戒されます。

外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように私たちの生活に欠かせないものがあり、私たちが知らず知らずのうちに運んでしまっているものもあります。しかし、侵略的外来種の悪影響が世界規模で問題視されている現在において、ふるさと福井の自然環境を守り伝えていくためにも、私たち一人一人が外来種のことをよく知り、きちんとした知識に基づいて適切な対応をすることが求められます。

本書では、外来種やそれが引き起こす問題、さらに外来種に関する法律について解説するとともに、福井県内で最近見つかった外来種の昆虫について詳しく紹介しています。また、本書の内容には、上述の助成を受けて、本年度に当館が実施した昆虫の市民参加型調査「ふくいむしむし大調査！～昆虫の分布調査 in 福井」の結果も反映されています。

最後になりましたが、本書の発行にあたり、貴重な資料をご提供いただいた方々に心から御礼申し上げますとともに、この調査にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。本書を通して、一人でも多くの方々が外来種についての興味・関心を持ってくださることを切に願います。

令和7年1月

福井市自然史博物館
館長 末政 薫

■ 外来種とは

もともとその地域にはいなかったのに、人間活動によって意図的または非意図的に外から持ち込まれた生物のことを**外来種**といいます。アメリカザリガニやアライグマ、セイタカアワダチソウなどは外来種としてよく知られていますが、身近に見られるモンシロチョウやセイヨウタンポポ、公園でよく見かけるドバトも実は外来種です。外来種は家のまわりから街中、公園、池や川などあらゆるところに生息しており、日本国内では 2,000 種を超える外来種が野外で生息しているとされています。



▲ モンシロチョウ

▲ セイヨウタンポポ
花の下部分が反り返る(矢印)

▲ ドバト

外来生物：国外由来の外来種のみを指す。

外来種：由来の国内外を問わず、本来の生息地域とは違う地域に持ち込まれた生物を指す。

■ 外来種はどのようにやってきた？

日本は世界中の国と貿易をし、様々なものが取引されています。ペットや食料品とするために、外国から様々な生物が運ばれることもあり、その一部が逃げ出したり、飼育できなくなって野外に放されることで「外来種」として国内に定着したものもあります。また、荷物に小動物が紛れ込んだり、輸入した農業資材などに植物の種子が紛れ込むことで日本国内に運ばれ、定着してしまったものもあります。

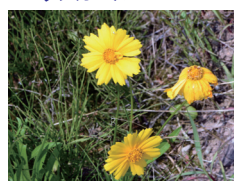
● 外来種はどうして国内に運ばれたのか

目的	例
ペットとして飼うため	アライグマ、ソウシチョウ
食用にするため	ウシガエル、ウチダザリガニ
衣服にするため	ヌートリア
農業に利用するため	セイヨウオオマルハナバチ
趣味や鑑賞のため	オオクチバス、オオキンケイギク
害獣対策	フイリマングース
知らないうちに運ばれた	セアカゴケグモ、アレチウリ

* 上の表の青字で示された生物は福井県内でも見つかっていることを示す



▲ ウシガエル



▲ オオキンケイギク

■ 外来種が引き起こす問題

外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように私たちの生活に欠かせないものもあります。しかし、一方で、地域の自然環境や人間の生活に悪い影響を及ぼしてしまうものもいて、このような外来種のことを**侵略的外来種**といいます。

● 外来種が引き起こす主な問題

① 地域固有の生態系への影響

- ・ 在来種（もともとその地域にいる生物）を食べて減少させる。
- ・ 在来種の餌やすみかを奪ってしまう。
- ・ 近縁の在来種と交雑して雑種を作る。



アメリカザリガニ
水生昆虫、オタマジャクシ、小魚、水草などを食べてしまう。本種による水草の破壊が水生昆虫の減少につながる。

② 人の生命・身体への影響

- ・ 毒を持っている。
- ・ 人を噛んだり刺したりする。
- ・ 花粉症の原因となる。



セアカゴケグモ(左)とオオブタクサ(右)

セアカゴケグモは人を噛み、オオブタクサは花粉症の原因となる。



③ 農林水産業への影響

- ・ 農林水産物を食べ荒らす。
- ・ 田畑を踏み荒らす。



写真撮影：出口翔大氏

ヌートリア
イネや水辺周辺の農作物を食い荒らして被害を与えることが知られる。

④ 人の暮らしへの被害

- ・ 家屋や文化財を傷つける。
- ・ 暮らしに必要な道具を傷つける。



写真撮影：鈴木聡氏

アライグマ
農作物を食い荒らすだけでなく、家屋や寺社の屋根裏への侵入・損壊の被害が知られる。

国内外来種

海外から持ち込まれた生物だけが外来種ではありません。国内の別の地域から持ち込まれた生物は**国内外来種**と呼ばれています。北海道にはもともとカブトムシは生息していませんでしたが、人間により持ち込まれ、定着してしまいました。



▲ カブトムシ
本州では在来種のカブトムシも北海道では外来種。

標本提供：八田真毅氏（セアカゴケグモ）

■ 外来生物法と特定外来生物

外来種による在来の生物や自然環境、私たちの生命と健康、農林水産業への被害を防止するために定められたのが**外来生物法**（正式名称：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」）です。この法律では、人間の移動や物流が盛んになり始めた明治時代以降に外国から持ち込まれた外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に大きな被害を及ぼす、または及ぼすおそれのある種類を**特定外来生物**に指定し、その飼育、栽培、運搬、保管、輸入、野外に放したり、植えたり種をまくことを原則として禁止しています。

特定外来生物の取り扱いの規制

× 飼ってはいけない

⇒ 特定外来生物を新たに飼ったり、栽培することはできません。一時的に保管するのも禁止されています。

× 持ち運んではいけない

⇒ **特定外来生物を生きのまま持ち運んではいけません**。外来生物の分布を拡げないための大切なルールです。

* 特定外来生物に指定されている植物を駆除したりする際にも、種子などが飛び散らないように袋に入れて枯死させてから持ち運ぶなどの注意が必要です。

× 野外に放してはいけない

⇒ 特定外来生物に指定されている動物を野外に放したり、植物を植える、種をまくことは禁止されています。

× 人に譲り渡してはいけない

⇒ 特定外来生物を許可を受けていない他の人に譲り渡してはいけません。

× 輸入してはいけない

違反した場合には、罰金や懲役などの罰則があります

■ 県内で確認されている特定外来生物

(2024 年 12 月現在)

分類群	種名
動物	哺乳類 アライグマ、ヌートリア
	鳥類 ソウシチョウ、ガビチョウ
	爬虫類 カミツキガメ、アカミミガメ
	両生類 ウシガエル
	魚類 ブルーギル、コクチバス、オオクチバス、カダヤシ
	無脊椎動物 ウチダザリガニ、アメリカザリガニ、セアカゴケグモ
植物	ボタンウキクサ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、アゾルラ・クリスタタ（外来アゾラ類）、ルドウィギア・グランディフロラ（オオバナミズキンバイ等）、ナガエツルノゲイトウ

* 福井県内の野外で確認された特定外来生物（https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/gairaiseibutu/fukui_giarai.html）を参考に作成。

■ 県内で確認されている特定外来生物②



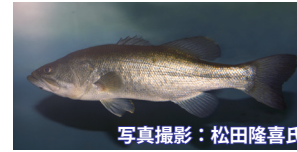
写真撮影：出口翔大氏
▲ガビチョウ
やぶを好み、ウグイスなどの在来種の生息地を奪うおそれがある。



写真撮影：出口翔大氏
▲ソウシチョウ
やぶを好み、ウグイスなどの在来種の生息地を奪うおそれがある。



写真撮影：松田隆喜氏
▲ブルーギル
雑食性で魚の卵やエビ、水生昆虫から水草まで食べてしまう。



写真撮影：松田隆喜氏
▲オオクチバス
魚類やエビ、水生昆虫のほか、水鳥の雛なども食べてしまう。



写真撮影：松田隆喜氏
▲コクチバス
オオクチバスが侵入できない河川上流域でも生息できるとされる。



▲アレチウリ
増殖力が強く、つるが巻きつく力が強いことから、駆除が大変。

■ 条件付特定外来生物

2023 年 6 月 1 日より、アメリカザリガニとアカミミガメが条件付特定外来生物に指定され、規制の対象になりました。条件付特定外来生物とは、特定外来生物のうち、一部の規制がかからない生物の通称です。

アメリカザリガニとアカミミガメについては、一般家庭などでの飼育、知人・友人など少数の相手に対する無償の譲り渡し、譲り受けは許可なしで行うことができます。一方で、販売や多数の人に配り分けることを目的とした飼育、購入、野外へ放すこと、輸入は原則として禁止されています。

条件付特定外来生物の規制のポイント

- 一般家庭でペットとして飼育しているアメリカザリガニやアカミミガメはこれまで通り飼育できます。最後まで責任をもって大切に飼育してください。
- アメリカザリガニやアカミミガメを野外に放したり、逃がしたりすることは法律で禁止されており、違反すると罰則・罰金の対象になります。
- 飼い続けるのが難しくなった場合は、友人・知人など責任をもって飼うことのできる相手に無償で譲り渡してください。*

*たとえ無償でも、不特定多数または特定多数に配り分ける行為は「頒布」と呼ばれ、法律で原則禁止されています。



▲アメリカザリガニ
魚類や水生昆虫、水草を食べしてしまう。



写真撮影：出口翔大氏
▲アカミミガメ
イシガメなど外来種の餌やすみかを奪ってしまう。

■ 外来種とのつきあい方～私たちにできること～

外来種は人間の生活と密接にかかわっていることが多く、その問題は私たちの日常生活とも深くかかわっています。このため、私たち一人一人が外来種についてもっとよく知る必要があります。そして、特定外来生物のように生きたまま持ち運んだり、飼育・栽培することが禁止されているものについては、きちんと知識を持って対応しなければなりません。たとえ特定外来生物に指定されていなくても、地域の自然環境や人間の生活に悪い影響を及ぼす侵略的外来種については、一度拡がってしまうとその防除には多大な労力とお金がかかります。環境省は外来種をこれ以上拡げないために、**外来種を「入れない、捨てない、拡げない」**の三原則を示しています。

ペットを最後まで責任をもって飼う、
採集した生物を他の場所に逃がさない、
外来種についてもっとよく知るなど、
ふるさと福井の美しい自然環境を未来に残していくために、私たち一人一人ができることを心がけたいものです。



▲ **パラワンヒラタクワガタ**
在来種のヒラタクワガタと交雑してしまう。
飼育している外国のカブトムシ、クワガタムシは
責任をもって最後まで飼育することが必要。

【外来種被害予防三原則】

- ① **入れない** 悪い影響を及ぼすおそれのある外来種をむやみに日本に入れない
- ② **捨てない** ペットとして飼育している外来種を野外に捨てない
- ③ **拡げない** 野外にいる外来種を他の地域に拡げない

■ 外来種に関心を持とう！

福井県でも次々と外来種の昆虫が見つかっています。次のページからは、県内で最近確認された外来種の昆虫を紹介します。

この中では、県内でまだ発見されていないものの、県内に侵入した場合には農林業などに被害を及ぼすおそれのある特定外来生物の昆虫も紹介しています。**日頃から外来種に関心を持ち、県内で特定外来生物が見つかった際にはいち早く防除して被害が拡がらないようにしなければなりません。**



▲ **クビアカツヤカミキリ（左）とツヤハダゴマダラカミキリ（右）**
県内に侵入した場合には、農作物や植栽植物に多大な被害を及ぼすおそれがある。

県内でクビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリを見つけたら、市町の担当部署と福井県自然環境課（Tel 0776-20-0306）までご連絡を！

資料提供：桐山 哲氏（クビアカツヤカミキリ標本）、富山市科学博物館（ツヤハダゴマダラカミキリ写真）



2024.10.1 坂井市三国町崎 休暇村越前三国

ウスグモスズ

バッタ目ヒバリモドキ科

- 大きさ：8mm 前後
- 成虫の見られる時期：8-11 月
- 原産地：中国？
- 生息環境：公園、人家周辺

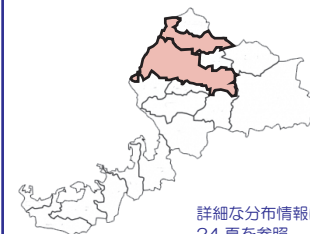
1966 年に東京都で採集されたのが国内で最も古い確実な記録とされています。1980 代には関東や東海地方、1990 年代には関西地方でも記録されるようになり、2000 年代になると大分県、島根県、新潟県などでも記録されています。

福井県内では 2016 年に福井市三里浜で採集されており、その後、坂井市三国町安島、崎、福井市文京でも確認されています。

木の上で生活し、幹などを素早く歩き回ります。オスは鳴きません。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



詳細な分布情報は
24 頁を参照



▲ 後翅の長い個体（長翅型）
ウスグモスズには後翅が長くなる個体もいる。



アカハネオンブバッタ

バッタ目オンブバッタ科

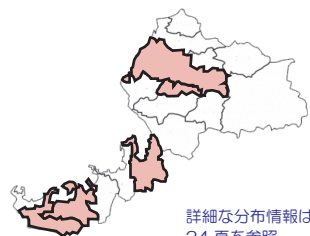
- 大きさ：20-42mm
- 成虫の見られる時期：7-11 月
- 原産地：台湾、中国、ジャワ島など
- 生息環境：公園、河川敷、里山など

2012 年頃から大阪を中心に近畿地方で確認されるようになり、最近では四国地方での確認事例が報告されています。国内ではもともと南西諸島に分布していますが、近畿地方に侵入したものの原産地は台湾と考えられています。

県内では、2024 年に福井市で初めて確認されましたが、その後、鯖江市、敦賀市、小浜市、おおい町などでも見つか、何年から前から侵入していたと推測されます。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



オンブバッタと競合？

野外でアカハネオンブバッタと在来種のオンブバッタの交尾が観察されたとの報告があり、オンブバッタの繁殖行動に影響を与える可能性があります。



ムネアカハラビロカマキリ

カマキリ目カマキリ科

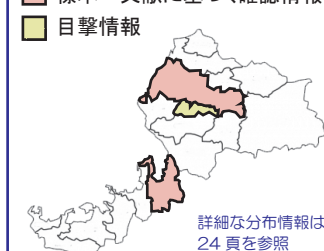
- 大きさ：64-83mm
- 成虫の見られる時期：9-11 月
- 原産地：中国？
- 生息環境：公園、林の近くなど

国内では 2010 年に敦賀市中池見湿地で初記録されました。その後、県内では記録がありませんでしたが、2023 年に足羽山でも見つかりました。

輸入した竹藪に付着した卵鞘によって国内に持ち込まれた事例が報告されています。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



被害

在来種、ハラビロカマキリと競合する

本種が侵入した地域では、在来種のハラビロカマキリが減少しているとの報告があります。



* 卵鞘：卵を包んでいる丈夫な袋状のケースのこと。

足



2017.10.17 坂井市丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター

シタベニハゴロモ

カメムシ目ビワハゴロモ科

- 大きさ：10-20mm
- 成虫の見られる時期：7-11 月
- 原産地：中国、台湾、ベトナムなど
- 生息環境：公園、庭、農地、林、河原、海岸など

国内では 2009 年に石川県で定着が確認されました。県内では、2013 年にあわら市吉崎で発見されたのが初記録です。その後、分布を拡大し、2017 年に足羽山、2021 年に敦賀市で確認されています。

外来種の樹木であるシンジュ（ニワウルシ）を好みますが、幼虫はブドウやウメ、キュウリなどについているのが観察されています。

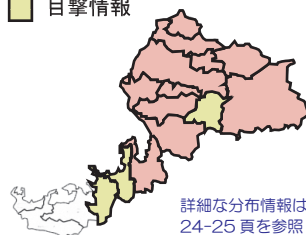


▲シタベニハゴロモの幼虫

成虫になる直前の段階では、幼虫は鮮やかな赤色になる

県内の分布確認状況

- 標本・文献に基づく確認情報
- 目撃情報



被害

排泄物を原因とする樹木の病気や家屋壁面の汚れ

大発生地では、本種の排泄物が原因で樹木の病気（スス病）が発生したり、家屋壁面が汚される被害が報告されています。



▲スス病で枯れた樹木

足

アワダチソウグンバイ

プラタナスグンバイ



2019.10.7 敦賀市横浜

2022.3.11 福井市八幡山

外来種のグンバイムシ類

カメムシ目グンバイムシ科

- 大きさ：3-4mm (アワダチソウグンバイ)
4-5mm (プラタナスグンバイ)
- 成虫の見られる時期：4-11 月 (両種とも)
- 原産地：北アメリカ (両種とも)
- 生息環境：草地、公園 (アワダチソウグンバイ)
公園、街路樹 (プラタナスグンバイ)

アワダチソウグンバイは 2000 年に兵庫県で、プラタナスグンバイは 2001 年に愛知県で確認され、その後、全国各地に分布を拡大しました。1996 年には、ヘクソカズラグンバイという外来種も国内で確認されています。

アワダチソウグンバイとプラタナスグンバイについては、県内の分布状況が報告されていますが、ヘクソカズラグンバイの県内での分布は調べられていません。

県内の分布確認状況

- 標本・文献に基づく確認情報



県内の分布確認状況

- 標本・文献に基づく確認情報



足

青りんごのような
さわやかなにおい

実寸大

すね
後脚の脛の部分が
平たく広がる

2021.10.16 敦賀市気比

マツヘリカメムシ

カメムシ目ヘリカメムシ科

- 大きさ：18-20mm
- 成虫の見られる時期：5-11 月
- 原産地：北アメリカ
- 生息環境：公園、海岸、林など

県内では 2018 年頃から敦賀市で見られるようになり、足羽山でも 2019 年に見つかりました。2021 年には高浜町での採集記録が報告されています。

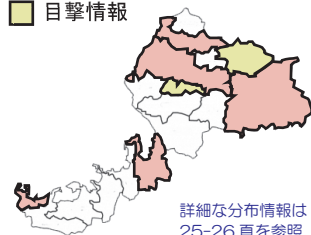
マツ類につき、秋には日当たりのよい白い壁などに止まっている姿が観察されます。

冬を越すために屋内に侵入

マツヘリカメムシは越冬のために屋内に侵入することがあります。本種が足羽山で見つかった 2019 年以降、福井市自然史博物館内でも冬季に本種の姿が観察されています。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報
■ 目撃情報



▲ 越冬のために屋内に侵入した
マツヘリカメムシ

足

頭部に黄色い
筋が目立つ

実寸大

幼虫

2020.11.21 福井市毛矢

キマダラカメムシ

カメムシ目カメムシ科

- 大きさ：20-23mm
- 成虫の見られる時期：4-11 月
- 原産地：中国、台湾、東南アジアなど
- 生息環境：公園、庭、市街地など

県内では 2019 年に福井市で発見されたのが初記録です。その後、福井市の中心部などでふつうに見られるようになりました。足羽山では 2021 年に幼虫・成虫が見つっています。

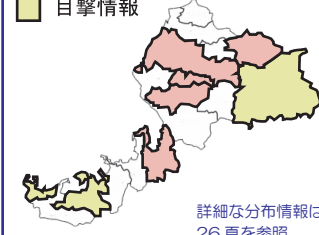
サクラやカキなど様々な植物につきます。

在来種（クサギカメムシ）との区別

キマダラカメムシに似た在来種にクサギカメムシがいます。クサギカメムシは頭部に黄色の目立つ筋がないこと、体がキマダラカメムシに比べてやや小型（13-18mm）であることで区別することができます。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報
■ 目撃情報



▲ クサギカメムシ

越冬のために室内に侵入し、不快害虫として嫌われる。

足



トウキョウヒメハンミョウ

コウチュウ目オサムシ科

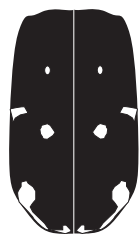
- 大きさ：9-10mm
- 成虫の見られる時期：6-9 月
- 原産地：中国、台湾
- 生息環境：庭、公園など

国内ではもともと関東や九州の一部だけで確認されており、その不自然な分布から外来種と考えられています。その後、国内の様々な地域で確認され、北陸地方では富山県で 2003 年、石川県では 2020 年に初めて見つかりました。

県内では福井市中心部付近、足羽山でそれぞれ 2000 年、2018 年に見つかりました。足羽山では 2020 年、2024 年にも確認されており、本種が定着していると思われます。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



▲トウキョウヒメハンミョウの上翅の模様
初宿（2007）を参考に作成

足



コルリアトキリゴミムシ

コウチュウ目オサムシ科

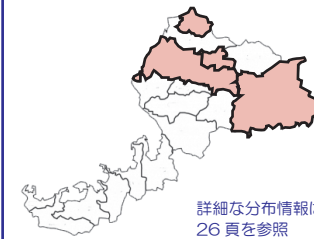
- 大きさ：4-5mm
- 成虫の見られる時期：4-10 月
- 原産地：北アメリカ
- 生息環境：河川敷、里山、海岸など

国内では 1989 年に千葉県で初めて確認され、その後、北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国・四国地方へと分布を拡げています。福井県では 2000 年にあわら市で初めて確認されています。

国内では、本種が植物の花粉を食べているところの観察例があるようですが、原産地のアメリカでは、本種やその近縁種の幼虫がカミナリハムシの一種の蛹の体表に寄生することが知られています。

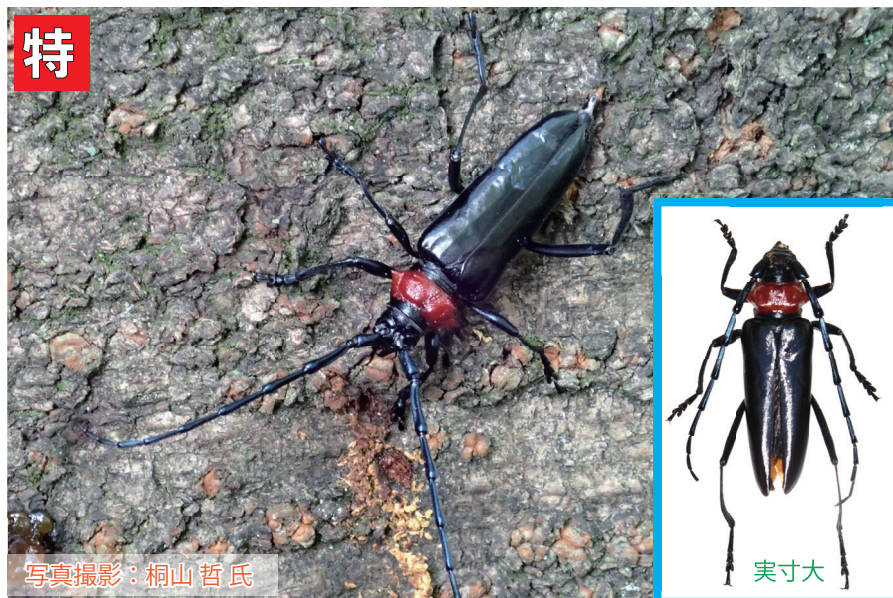
県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



▲カミナリハムシ
カミナリハムシの仲間にはよく似た種類が多くおり、正確に名前を調べるにはオスの交尾器の形を見る必要がある。

特



写真撮影：桐山 哲氏

クビアカツヤカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

- 大きさ：22-38mm
- 成虫の見られる時期：6-8月
- 原産地：中国、台湾、ベトナムなど
- 生息環境：公園、市街地など

2012年頃に国内に侵入したとされています。これまでに、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、三重県、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県などで見つかっています。

幼虫は樹木の内部で2～3年暮らし、成虫の寿命は2週間以上とされています。

県内の分布確認状況



被害

果樹や街路樹の食害

サクラ、ウメ、モモ、カキなどにつき、幼虫が樹木内部を食べ荒らすことで、樹木が衰弱したり枯死したりします。



▲ クビアカツヤカミキリの食害を受けたサクラ



フラスが発見の手がかり

クビアカツヤカミキリの幼虫は木に開けた穴から大量のフラス（右写真：糞と木くずが混ざったもの）を出します。



資料提供：桐山 哲氏（クビアカツヤカミキリ）

特



写真提供：富山市科学博物館

ツヤハダゴマダラカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科

- 大きさ：20-35mm
- 成虫の見られる時期：5-10月
- 原産地：中国～朝鮮半島
- 生息環境：植林地、果樹園、街路樹など

2021年に兵庫県内で定着が確認され、これまでに宮城県、埼玉県、富山県、愛知県、兵庫県などで発生が確認されています。

在来種のゴマダラカミキリに非常によく似ています。

県内の分布確認状況



被害

植栽樹木の食害

カエデ類、ヤナギ類、サクラ類など様々な樹種の内部を食い荒らします。海外では植栽樹木に多大な被害を及ぼす事例が報告されています。

在来種ゴマダラカミキリとの見分け方

外来種



胸に白い斑紋なし
胸に白い斑紋あり

在来種



ハネ上部の表面はつるつる
ハネ上部の表面はボロボロ

足



実寸大

2013.9.6 福井市舟橋九頭竜川左岸河川敷

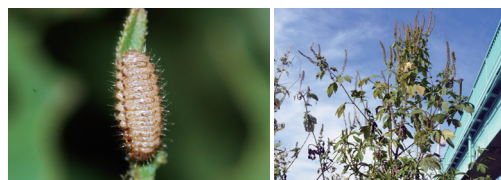
ブタクサハムシ

コウチュウ目ハムシ科

- 大きさ：3.7-4.8mm
- 成虫の見られる時期：3-10月
- 原産地：北アメリカ
- 生息環境：河川敷、草地、道路沿い

国内では 1996 年に千葉県で発見され、その後、急速に分布を拡大して全国各地で発見されました。

県内では 1999 年に福井市内の九頭竜川河川敷で初記録され、その後、各地に本種が侵入していることが報告されています。ブタクサやオオブタクサのほか、オオナモミやヒマワリを食害します。

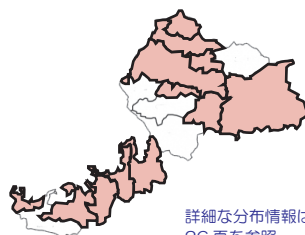


▲ブタクサハムシ幼虫

▲オオブタクサ

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



被害

ヒマワリ類の食害

本種は花粉症の原因となるブタクサ類を激しく食害することから、その防除に役立つと期待されていましたが、経済植物のヒマワリ類も食害することが判明し、害虫になる可能性も指摘されています。

足



実寸大(♀)

2021.6.21 福井市足羽山

台湾タケクマバチ

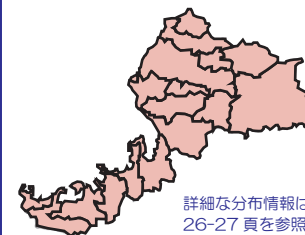
ハチ目ミツバチ科

- 大きさ：21-28mm
- 成虫の見られる時期：4-10月
- 原産地：台湾、中国南部～インド
- 生息環境：庭、林の近く、河川敷など

国内では 2006 年に愛知県で、県内では 2017 年に福井市兎越山の麓で初記録されました。その後、精力的な調査によって本種が県内に広く分布拡大していることが報告されています。足羽山でも 2020 年頃からよく見かけるようになりました。

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



被害

竹箒やホースへの穿孔

本種により竹箒やホースに穴をあけられてしまうとの相談が当館に寄せられています。本種が中にいるのを知らずに竹箒やホースを使用しようとすると、刺されてしまうこともあるので、注意が必要です。



▲台湾タケクマバチのオス

▲台湾タケクマバチに穴をあけられた竹箒(左)とホースをかじる台湾タケクマバチ(右) (写真提供：八木正邦氏)

国内で分布を拡大する昆虫

近年、熱帯あるいは亜熱帯原産と考えられる南方系の昆虫が分布を拡大しています。日本国内でも、これまで主に沖縄県などの西南暖地に限定的に生息していた南方系の昆虫が、北部へと分布を拡大しています。こうした南方系の昆虫の分布拡大には様々な要因が考えられますが、地球温暖化の進行により冬季の平均気温や最低気温が上昇したことや、餌となる植物の栽培地域が拡大したことも大きな要因と思われます。加えて、都市部では、ヒートアイランド現象が冬季や春季に地域的な規模で気温上昇をもたらし、南方系の昆虫の越冬生存率の向上につながっていると考えられます。

1990年代以降、福井県内でも、それまで見られなかった南方系の種類が侵入したり、もともとあまり多くなかった南方系の種類が分布域を拡大している事例が報告されています。地球温暖化の進行や物流の活発化、植栽などの影響を受けて県内に侵入したり、分布域を拡大させている昆虫たちに目を向けることも、ふるさとの自然の移り変わりを知るうえでは大切なことです。次のページからは、最近県内で確認されるようになった南方系の昆虫について紹介します。



▲ ナガサキアゲハのメス

左右の前翅を開いた長さは 9 ~ 12cm ほどになる大型のアゲハ。南方系の種で、かつて国内では、南西諸島や九州、四国南部などに分布するのみであったが、1980年代より分布を拡大し、2000年頃までに東海・関東地方南部にも侵入・定着した。本種の分布拡大の原因は地球温暖化であることが確かめられている。

県内では 1993 年に若狭町で初めて採集された。



▲ ツマグロヒョウモン

1990年代中頃から福井県北部でもよく見られるようになった。幼虫はスミレ類の葉を食べるが、パンジーも好む。



▲ クロコノマチョウ

日本各地で分布を拡大しているとされる。県内でも、1990年代より採集記録や目撃事例が複数見られる。



▲ ラミーカミキリ

県内では 1999 年に高浜町での採集記録が報告されて以降、2000年代に分布拡大が報告された。

標本提供：星野誠司氏（ナガサキアゲハ）



写真撮影：小泉博美氏

2023.7.4 おおい街大島

ヒラズゲンセイ

コウチュウ目ツチハンミョウ科

- 大きさ：18-33mm
- 成虫の見られる時期：6-8月
- 原産地：日本（四国南部、九州など）；東南アジア
- 生息環境：林の近く、公園、庭など

もともと国内では四国南部や九州などに分布が知られているだけでしたが、近年分布を拡大し、2000年代には近畿地方各地で見られるようになりました。県内では 2023 年におおい町で初めて確認されています。

幼虫はキムネクマバチの巣に寄生します。

危険！素手でさわらないで！！

ヒラズゲンセイはカンタリジンという毒素を含む体液を出し、これが皮膚につくと、水ぶくれのような炎症を起こします。体液がついたら、すぐに水で洗い流しましょう。

標本所蔵：伊藤勝幸氏

県内の分布確認状況

■ 標本・文献に基づく確認情報



詳細な分布情報は
27 頁を参照



▲ キムネクマバチ

オスは顔面に黄色い三角形の模様がある。



ムラサキツバメ

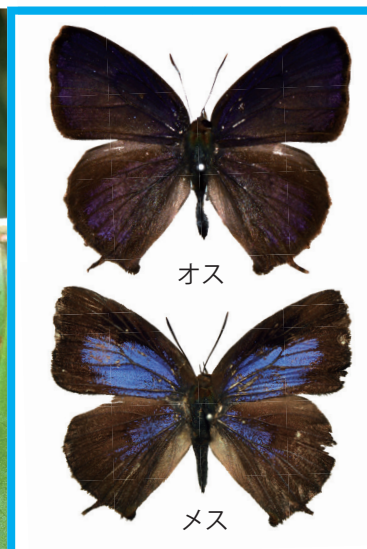
チョウ目シジミチョウ科

- 大きさ：35-40mm
- 成虫の見られる時期：3-11月
- 分布：本州～沖縄；台湾、フィリピン、インドネシアなど
- 生息環境：公園、街路樹周辺など

国内では1980年代までは近畿地方より西の暖かい地域に分布しているのみでしたが、1990～2000年代にかけて中部地方や関東地方などでも確認されるようになりました。幼虫はマテバシイとシリブカガシを食草とし、本種の分布拡大には、街路樹や公園へのマテバシイの植樹やその剪定などの管理作業が関連している可能性があると言われています。

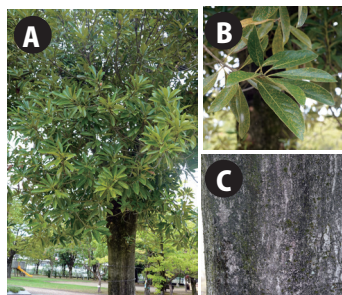
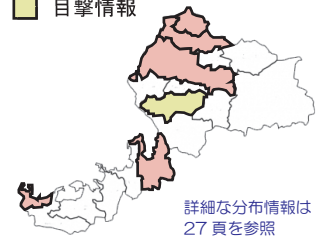
県内では2014年にあわら市で初めて確認され、その後、福井市、坂井市三国町、敦賀市などでも確認されています。

標本提供：木村富至氏（ムラサキツバメ オス）



県内の分布確認状況

- 標本・文献に基づく確認情報
- 目撃情報



▲ マテバシイ

A: 樹形、B: 葉、C: 幹

足



イチジクヒトリモドキ

チョウ目ヒトリモドキガ科

- 大きさ：50-56mm
- 成虫の見られる時期：5-11月？
- 原産地：台湾、中国、マレーシア～インド
- 生息環境：庭、果樹園

国内では1962年に静岡県と沖縄県で、1980年代には九州での採集記録が報告されています。2000年前後から九州だけでなく中国・四国へも分布を拡大して定着・発生するようになり、2010年頃には近畿や中部地方でも発生が確認されています。

県内では2016年に福井市足羽山で採集されたのが初記録で、その後、福井市内の数地点、坂井市丸岡町で確認されています。



▲ イチジクヒトリモドキの幼虫

県内の分布確認状況

- 標本・文献に基づく確認情報



被害

栽培されたイチジクの葉を加害

1999年に愛媛県で本種の幼虫による栽培イチジクの葉の食害が報告され、以降、各地で本種幼虫によるイチジクの葉の食害が報告されています。

付録 昆虫分布データ

本書で紹介した昆虫の2024年12月現在の分布データを掲載しています。分布データは、文献記録と福井市自然史博物館の収蔵標本のデータ、2024年7月15日～12月15日の期間で実施した「ふくいむしむし大調査！～昆虫の分布調査in福井」で市民から提供いただいたデータに基づいています。「ふくいむしむし大調査！」に協力いただいた方で、氏名の公表許可を得られた方のお名前は調査協力者として章末に掲載させていただきます。また、文献リストは巻末にまとめました。

ウスゲモスズ

【文献記録】 坂井市：三国町安島（保科ほか，2023）；福井市：三里浜（市川，2017）；文京 福井大学文京キャンパス（保科ほか，2023）。

【標本記録】 坂井市：三国町崎 休暇村越前三国（2♂4♀，1.X.2024）。

アカハネオンブバッタ

【標本記録】 福井市：大手3丁目 順化小学校（1♂2♀，22.X.2024）；末町（2♂2♀，12.X.2024；1♂2♀，24.X.2024）；大願寺公園（4♀，11.X.2024）；福2丁目（1♀，2.XI.2024）；御幸4丁目 和田公民館付近（1♀，27.X.2024）。 鯖江市：日の出町 籍陰小学校（3♀，15.X.2024）。 敦賀市：沓見 敦賀市総合運動公園（3♂，31.X.2024）。 小浜市：南川町（1♂，27.X.2024）。 おおい町：鹿野（3♂，3.XI.2024）。

ムネアカハラビロカマキリ

【文献記録】 福井市：足羽山（梅村・小寺，2023）。 敦賀市：中池見（藤野ほか，2010）。

【標本記録】 福井市：足羽山（1♀，22.VII.2023，1♀，4.XI.2024）；安波賀中島町（1♀，6.IX.2024）；城戸ノ内町（1♀，12.X.2024）；東郷地区（1♀，X.2024）。

【むしむし大調査】 福井市：足羽山（12.X.2024）；安波賀町（24.IX.2024）；安波賀中島町（6.IX.2024）。 東郷地区（X.2024）。 鯖江市：桜町 西山公園（27.VIII.2024）。 敦賀市：中池見（1.IX.2024）。

シタベニハゴロモ

【文献記録】 あわら市：赤尾（大宮，2015）；北潟（大宮，2015）；波松（大宮，2015）；浜坂（大宮，2015；梅村ほか，2017）；細呂木（大宮，2015）；吉崎（梅村ほか，2013，2017；大宮，2015；嶋田ほか，2015）。 坂井市：丸岡町女形谷（嶋田，2016；梅村ほか，2017）；丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター（梅村ほか2017）；丸岡町北横地（梅村ほか，2017）；丸岡町山久保（嶋田，2016）；丸岡町与河（嶋田，2016）。 福井市：足羽山（梅村ほか，2017，；梅村，2023）；河水町 東山墓地（梅村ほか，2017）；下市山駐車場（梅村ほか，2017）；月見3丁目 福井市豊小学校（梅村ほか，2017）；堂島町（梅村ほか，2017）；西畑町（神尾，2023）；文京2丁目 福井市明道中学校（梅村ほか，2017）；福松大橋周辺（梅村ほか，2017）。 永平寺町：上浄法寺 浄法寺旅行村（梅村ほか，2017）；上合月（梅村ほか，2017）；諏訪間（梅村ほか，2017）；松岡春日 永平寺町役場（梅村ほか，2017）；松岡室 乃木山古墳（梅村ほか，2017）；松岡薬師1丁目（梅村ほか，2017）。 勝山市：下高島（梅村ほか，2017）；長尾山（梅村ほか，2017）；野向竜谷（梅村ほか，2017）。 越前市：村国山（梅村ほか，2017）。 敦賀市：赤崎（夢田，2021）。

【標本記録】 あわら市：吉崎（1♂1♀，10.X.2013；1♂1♀，1.VIII.2014；1♂1♀，20.IX.2014；3exs（幼虫），6.V.2016；1♂2♀，11.IX.2016）。 坂井市：丸岡町女形谷（3♂2♀，5.XI.2017，）；丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター（3♀，17.X.2017；2♂3♀，28.X.2017；1♀，3.VIII.2018；1♀，21.X.2018）；三国町黒目（1♀，14.IX.2023；1♀1ex（幼虫），21.VII.2024）；三国町山王（1♀，12.IX.2021）。 福井市：足羽山（4♀，11.X.2017；1ex（幼虫），17.V.2018；1ex（幼虫），4.VI.2018；1♂，28.VII.2018；1♀，17.VII.2020；1♀，3.IX.2021）；大芝山（1ex（幼虫），13.VII.2020；1♀，24.VIII.2020）；大年町 本郷小学校（1ex（幼虫），1.VII.2020）；柴崎町 松尾神社（1♀，3.X.2020）；笹谷町（1ex（幼虫），10.V.2024；1ex（幼虫），5.VI.2024）；月見（1♀，30.IX.2019）；月見3丁目 豊小学校（1♀，28.VII.2017；2♂2♀2exs（幼虫），30.VII.2017；3♀，26.VIII.2017）；西畑町（1♂1♀，16.IX.2023）；八幡山（2exs（幼虫），14.V.2018；1ex（幼虫），17.VI.2020）；福2丁目（1♀，26.IX.2018）。 永平寺町：市荒川（2♂1♀，15.IX.2019，）；上合月（2♂4♀，28.X.2017；1♀，21.X.2018）；諏訪間（4♀，28.X.2017）；松岡兼定島（1♀，5.X.2018）；松岡室 松岡古墳（1♂，15.X.2017）。 勝山市：長尾山（3♀，20.VIII.2018）；本町（2♀，20.VIII.2018）；元町3丁目（3♂6♀，12.XI.2024）。 大野市：中島（1♀，24.IX.2021）。 鯖江市：旭町（1♀，22.IX.2019）；石田下町（1♂，3.VIII.2024）；桜町（1ex（幼虫），1.VIII.2020）。 越前町：乙坂（1♀，19.IX.2022；1♂，24.IX.2022）。 越前市：村国山（1♂，26.VIII.2017；1♀，23.IX.2017）；湯谷町（1♀，12.XI.2022）。 南越前町：今泉 熊野神社（2♀，21.VIII.2021）；宇津尾（1♀，19.XI.2022）；河野（3♂8♀，16.X.2021）。 敦賀市：赤崎（1♂，19.IX.2021；1♂，20.IX.2021；1♀，21.IX.2021）；横浜（2♀，16.X.2021；2♀，19.X.2021）。

< 次頁へつづく >

< シタベニハゴロモ つづき >

【むしむし大調査】 あわら市：井江菫（5.VIII.2022）；春宮2丁目（27.VI.2024（幼虫））；春宮3丁目（6.IX.2024）；二面 ホープタウン（2023～2024年）*；あわら市（5.VII.2024（幼虫），24.X.2024）。 坂井市：春江町（24.VII.2019）；丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター（20.IX.2024，5.X.2024，27.X.2024）；丸岡町八町（13.IX.2018）；丸岡町（25.VII.2024，14.IX.2024）；三国町崎 休暇村越前三国（22.IX.2024）；三国町陣ヶ岡（15.VII.2024（幼虫））；三国町新保 テクノポート（12.VIII.2020）；三国町中央（7.X.2024）；三国町錦（15.VIII.2024）；三国町（6.IX.2022（幼虫），12.IX.2024，13.IX.2024，12.X.2024）。 福井市：足羽山（8.VI.2024（幼虫），14.VI.2024（幼虫），22.VI.2024，29.VI.2024（幼虫），13.VII.2024（幼虫），14.VII.2024，4.VIII.2024，10.VIII.2024，24.VIII.2024）；足羽2丁目（16.VIII.2024）；鮎川町（14.IX.2024）；石盛1丁目（16.IX.2024）；江尻ヶ丘町（27.VII.2024）；江守の里1丁目（15.VIII.2024）；花月4丁目（10.IX.2024，10.X.2024）；北菅生町 長橋小学校周辺（3.VIII.2022）；合谷町（1.IX.2024）；三十八社町（20.VII.2024）；志比口（7.IX.2024）；高木北2丁目（12.VIII.2024）；田尻栃谷町（21.VIII.2024）；西木田3丁目（4.IX.2024）；ふくい健康の森（16.X.2023）；舞屋町（17.VII.2024）；松本町（23.VII.2023）；松本2丁目（29.VII.2023）；水越（6.VIII.2024）；南菅生町（11.IX.2024）；養町（30.VIII.2024）；みのり（5.IX.2023）；みのり3丁目（6.X.2024）；社南（13.X.2024）；安竹町（27.VI.2024（幼虫））；若杉町（23.VIII.2024）。 永平寺町：松岡葵（28.VII.2023）。 松岡志比堺（13.IX.2024）；松岡神明（5.X.2024）；松岡末政鳴鹿大堰 第4 警報局 倉九頭竜川堤防上（10.IX.2024）；松岡薬師（25.IX.2024）。 勝山市：遊羽町比島 えちぜん鉄道勝山駅周辺（25.VIII.2021）；沢町（20.VIII.2024）；法恩寺山（27.IX.2024）；本町（17.IX.2024）；村岡町（13.VIII.2024）；元町3丁目（9.VII.2023（幼虫），9.XI.2024，12.XI.2024）。 大野市：大野城町 越前大野城遊歩道・亀山公園（2.IX.2024，11.IX.2024，12.IX.2024）；篠座奥越ふれあい公園（22.VIII.2024）；天神町 大野市役所（4.IX.2024）；中島 麻羽姫キャンプ場（13.X.2024）；中野町（11.VIII.2024，6.X.2024）；西勝原（16.IX.2024）；南六呂師（5.VIII.2024（幼虫），21.X.2024）。 鯖江市：石田下町（3.VIII.2024，10.VIII.2024）；桜町 西山動物園（3.IX.2024）；神明町（29.IX.2023）。 越前町：朝日 福井総合植物園（24.VIII.2024）；米ノ（22.IX.2024）；米ノ漁港（24.VIII.2024）；白浜海水浴場（3.XI.2024）；玉川漁港（13.IX.2024）；今宿町（5.VIII.2024）；大塩町（15.IX.2024）；小杉町（23.IX.2024）；中央（11.IX.2024）；長谷町（9.XI.2024）。 波垣町（VIII.2024）；矢良巢岳（2.X.2022）。 南越前町：今庄 藤倉山登山口（10.VIII.2023）；河野（11.VIII.2024（幼虫・成虫））；清水（15.IX.2024）；糠（9.IX.2024）；東大道（1.VII.2024（幼虫））；ニッ屋（13.X.2024）；湯尾（11.IX.2024）。 敦賀市：阿曾（14.IX.2024）；観音町（8.VIII.2024）；公文名（10.VIII.2024）；桜町（6.X.2024）；天筒山（5.IX.2024）；中池見（6.VIII.2024，7.VIII.2024）。 美浪町：丹生（2.VIII.2024）；若狭町：河内 溪流公園周辺（7.VII.2024（幼虫））。

上記のほか、当館学芸員による池田町内での目撃情報がある。

*：奥出俊太郎氏の自由研究による観察記録に基づく

アワダチソウゲンバイ

【文献記録】 福井市：足羽山；上六条 足羽川左岸河川敷；舟橋 九頭竜川左岸河川敷。 永平寺町：北島 九頭竜川右岸河川敷；松岡末政。 越前市：帆山町 日野川右岸河川敷。 南越前町：上野 日野川右岸河川敷。 敦賀市：樫曲；天筒；横浜。 小浜市：尾崎。 おおい町：名田庄小倉。 高浜町：小黒飯；中津海；山中。（いずれも梅村，2020）

【標本記録】 福井市：足羽山（2exs，23.X.2019，2exs，20.VII.2020）；上六条 足羽川左岸河川敷（2exs，5.XI.2019）；三里浜（2exs，10.X.2020）；末町（2exs，12.X.2024）；舟橋 九頭竜川左岸河川敷（2exs，7.XI.2019）。 永平寺町：北島 九頭竜川右岸河川敷（4exs，7.XI.2019）；松岡末政（2exs，7.XI.2019）。 越前市：帆山町 日野川右岸河川敷（5exs，28.X.2019）。 南越前町：上野 日野川右岸河川敷（4exs，28.X.2019）。 敦賀市：樫曲（3exs，28.X.2019）；天筒（1ex，28.X.2019）；横浜（5exs，7.X.2019）。 小浜市：尾崎（1ex，10.XI.2019）。 おおい町：名田庄小倉（1ex，10.XI.2019）。 高浜町：小黒飯（1ex，10.XI.2019）；中津海（1ex，10.XI.2019）；山中（1ex，10.XI.2019）。

プラタナスゲンバイ

【文献記録】 坂井市：丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター。 福井市：八幡山（いずれも梅村，2020）

【標本記録】 坂井市：丸岡町楽間 福井県総合グリーンセンター（1ex，15.IV.2019）。 福井市：八幡山（2exs，29.IV.2019，5exs，27.X.2019，1ex，28.X.2019，4exs，11.III.2022）

マツヘリカメムシ

【文献記録】 福井市：足羽山（梅村，2023）。 高浜町：中山（一瀬，2021）

【標本記録】 坂井市：三国町崎 休暇村越前三国（1ex，1.X.2024）。 福井市：足羽山（2exs，30.XI.2019；1ex，15.X.2021；1ex，28.X.2021；1ex，5.XI.2021；1ex，7.XI.2021；1ex，16.XI.2021；1ex，2.XII.2021；1ex，4.XII.2021；1ex，18.XII.2021；1ex，16.IV.2022；1ex，5.IV.2024）；毛矢（1ex，2.XI.2023）；笹谷町（1ex，6.IV.2024）；福2丁目（1ex，3.IV.2024）；若杉（1ex，31.X.2020）。 大野市：南六呂師（4exs，17.XI.2022）。 敦賀市：気比の松原（1ex，16.X.2021）。

< 次頁へつづく >

【むしむし大調査】 坂井市：三国町崎 休暇村越前三国（16.XI.2024）。 福井市：福井市（16.X.2023）。 勝山市：旭町（25.I.2024）；鯖江市：神明町（4.XI.2023）；舟津町 鯖江高校（12.X.2023）

キマダラカメムシ

【文献記録】 福井市：新田塚（梅村・利田，2020）

【標本記録】 福井市：明里町（1ex, 22.X.2021）；足羽2丁目 足羽公民館（1ex, 22.VI.2022）；足羽3丁目（1ex, 14.XI.2022）；足羽3丁目 足羽小学校（2exs(幼虫・成虫), 24.VIII.2024）；足羽山（1ex(幼虫), 5.VIII.2021, 1ex, 25.XI.2021, 1ex, 26.VI.2022, 1ex(脱皮殻), 3.IX.2022, 1ex, 22.X.2022, 2exs, 26.X.2022, 1ex, 29.IV.2023, 1ex, 22.VII.2023）；一乗滝（1ex, 11.X.2024）；江守の里（1ex, 15.X.2024）；大手（1ex, 14.IX.2023）；春日3丁目 一本木公園（1ex, 3.VI.2022）；木田町（1ex, 23.VIII.2024）；経田1丁目（19exs(幼虫・成虫), 23.VII.2024）；毛矢（1ex, 2.IV.2020, 1ex, 8.V.2020, 1ex, 24.V.2020, 1ex, 5.VI.2020, 1ex, 10.IX.2020, 1ex, 23.IX.2020, 4exs, 21.XI.2020, 2exs, 24.X.2023, 1ex, 1.XI.2023, 1ex, 2.XI.2023）；毛矢1丁目（1ex, 4.X.2020, 2exs(幼虫), 17.XI.2020, 1ex, 18.XI.2020, 6exs, 21.XI.2020）；月見町（1ex, 8.XI.2021）；西木田（2exs, 21.XI.2020）；新田塚（1ex, X.2019, 1ex, 2.VI.2020, 1ex, 5.VI.2020, 1ex, 18.VI.2020, 1ex, 23.VI.2020, 1ex, 27.VI.2020, 1ex, 22.IX.2021, 1ex, 19.X.2021）；二の宮（1ex, 21.IX.2024）；松本3丁目 宝永小学校（1ex, 13.IX.2024）；水越 東安居小学校（1ex, 12.VII.2021）；門前町（1ex, 14.VIII.2024, 1ex, 16.VIII.2024）；有楽町（1ex, 9.XI.2022）。 勝山市：北谷町（1ex, 31.X.2024）。 鯖江市：小黒町 西山公園・西山橋（1ex, 9.X.2024）。 越前市：高瀬2丁目（1ex, 4.IX.2024）。 敦賀市：杵見 敦賀市運動公園（1ex, 16.X.2021）。

【むしむし大調査】 福井市：板垣（11.VI.2022）；板垣1丁目（6.VIII.2024(幼虫)）；上野本町（5.X.2024）；江守の里1丁目（15.X.2024）；大手3丁目 福井県庁周辺（10.IX.2024, 15.IX.2024(幼虫)）；大手3丁目 福井市役所（22.X.2024）；大宮（10.IX.2024）；大宮2丁目 幾久グラウンド（23.IX.2024(幼虫)）；花月4丁目（10.X.2024(幼虫)）；経田2丁目（11.IX.2024）；幸橋（13.IX.2024）；下新井町（21.IX.2024）；城東下北野公園（23.VIII.2024）；高木中央2丁目（15.IX.2024）；種池 社南公民館（24.IX.2024(幼虫)）；手寄1丁目（24.X.2024）；豊島2丁目 東公園（20.X.2024）；西谷2丁目 西谷南公園（10.X.2024）；四ツ井（21.X.2024）；和田たんぽぽ児童館（21.VIII.2024(幼虫)）。 大野市：美川町 三角公園（14.X.2024）。 鯖江市：桜町 西山動物園（3.IX.2024）；舟津町（12.IX.2024）；舟津町 鯖江高校（31.X.2023）；丸山公園（4.VIII.2024(幼虫)）；水落町（10.IX.2024）；米岡町（10.IX.2024）。 越前市：芝原5丁目（21.IX.2024(幼虫)）；芝原5丁目 飯部磐座神社（9.VIII.2024(幼虫)）；下太田町（11.IX.2024）；村国3丁目（13.IX.2024）。 敦賀市：観音町（8.VII.2024）；堂（29.VIII.2024）。 小浜市：川崎1丁目（12.VIII.2024）；中井（12.IX.2024）；南川町 福井県立若狭図書館学習センター周辺（6.IX.2024）。 高浜町：西三松 高浜町立青郷保育所付近（17.IX.2024）；和田 和田児童センター付近（12.IX.2024）

トウキョウヒメハンミョウ

【文献記録】 福井市：足羽山（梅村，2018, 2023）；宝永3丁目 養浩館庭園周辺；松本3丁目（いずれも下野谷，2004）

【標本記録】 福井市：足羽山（3exs, 9.VII.2018, 3exs, 8.VII.2024）

コルリアトキリゴミムシ

【文献記録】 あわら市：笹岡。 福井市：舟橋町九頭竜川河川敷。 永平寺町：五松橋周辺。 大野市：朝日（いずれも下野谷，2004）

【標本記録】 福井市：足羽山（1ex, 20.VI.2016, 1ex, 29.IV.2020）；稲津（1ex, 26.IX.2010）；笹谷町（1ex, 26.VIII.2024）；末町（2exs, 23.IX.2024）

ブタクサハムシ

【文献記録】 あわら市：あわら市（下野谷，2004）。 坂井市：丸岡町（下野谷，2004）；丸岡町竹田（梅村，2010）；三国町（下野谷，2004）。 福井市：足羽山（梅村，2015）；稲津（下野谷ほか，2009）；大芝山（梅村，2010）；末町（梅村，2014）；二日市九頭竜川河川敷（下野谷，2004）；市内国道8号線周辺の九頭竜川河川敷（鈴木・中村，1999）。 永平寺町：永平寺町。 大野市：中島。 鯖江市：鯖江市。 池田町：水海。 敦賀市：敦賀市。 美浜町：美浜町。 若狭町：切迫；神子。 小浜市：小浜市（いずれも下野谷，2004）。

【標本記録】 福井市：足羽山（1ex, 29.IX.2015）；稲津 足羽川河川敷（1ex, 27.IX.2009, 1ex, 26.IX.2010）；大芝山（1ex, 6.VII.2010, 3exs, 24.IX.2010）；末町（1ex, 18.IV.2024）。 永平寺町：北島（1ex, 7.XI.2019）。 若狭町：気山切迫（14exs, 6.VII.2001）。 小浜市：勢浜（2exs, 13.X.2018）。 高浜町：鎌倉（1ex, 10.XI.2019）。

タイワンタケクマバチ

【文献記録】 あわら市：北潟東（室田，2020）；国影（室田，2020）；花乃杜（室田，2018）；山十楽（室田，2020）。

坂井市：三国町池上（室田，2020）；三国町陣ヶ岡（室田，2020）；三国町嵩（室田，2020）。 福井市：足羽山（梅村，2023）；大森町清水西小学校（室田，2019）；開野町砂田公園（室田，2020）；城戸ノ内町（室田，2020, 2021, 2023）；グリーンハイツ清水北小学校（室田，2019）；河水町岡保小学校（室田，2019）；種池（室田，2019）；月見おさごえ民家園（田塾・黒川，2017）；徳尾町（室田，2020, 2021）；本堂町安居小学校（室田，2019）；若杉町社北小学校（室田，2020）。 永平寺町：松岡芝原2丁目（奥野，2023）；松岡神明2丁目（奥野，2023）；松岡西野中（奥野，2023）。 勝山市：荒土町細野口（松山・室田，2021；室田，2021, 2023）。 大野市：川合山原ダム（室田，2023）；下舌（室田，2023）。 鯖江市：落井町（室田，2021）；片山町（室田，2020）；桜町（室田，2018）；桜町2丁目（室田，2017）；桜町西山公園（室田，2017）；持明寺町（室田，2018, 2020）；神明町鳥羽小学校（室田，2019）；住吉1丁目（室田，2017, 2018）；住吉3丁目（室田，2017, 2020）；長泉寺町（室田，2018）；長泉寺町1丁目（室田，2017）；長泉寺町進徳幼稚園（室田，2017）；中野町（室田・笹本，2020）；日の出町籍陰小学校（室田，2017, 2020）；平井町 平井児童センター（室田，2018）；本町4丁目（室田，2017）；水落町（室田，2017, 2021）；水落町 神明小学校（室田，2017）；柳町1丁目（室田，2017）；吉谷町（室田，2021）。 越前町：江波（室田，2021）；小曽原（室田，2021）；櫻津（室田，2021）；上糸生（室田，2023）；上川去（室田，2020）；柳川（室田，2020, 2021）；宝泉寺（室田，2023）。 越前市：相木町（室田，2021）；味真野（室田，2020）；安養寺町（室田，2021）；米口町（室田，2021）；都賀町（室田，2021）；中津原町（室田，2021）；東千福町 紫式部公園（室田，2020）；湯谷町（室田，2021）。 ；余川町 万葉の里味真野苑（室田，2020）。 池田町：稲荷（室田，2023）。 南越前町：今庄（室田，2021）；上野（室田，2021）；鯖波（室田，2023）；島（室田，2021）；中小屋（室田，2021）；八飯（室田，2023）。 敦賀市：櫻曲（室田，2020）；柳川河川公園（室田，2018, 2020）。 美浜町：今市（室田，2021）。 若狭町：朝霧（室田，2021）；大鳥羽（室田，2021）；無患（室田，2021）。 小浜市：堅海（室田，2021）；上中井（室田，2020）；加茂（室田，2019, 2021）；神宮寺（室田，2020）；中井（室田，2020）；飯盛加斗小学校（室田，2021）。 おおい町：鹿野佐分利小学校（室田，2021）；名田庄小倉（室田，2021）。 高浜町：高野（室田，2021）。

【標本記録】 福井市：足羽山（1♀, 18.V.2024）；川尻町（1♀, 15.IX.2024）；毛矢1丁目（3♀, 27.VII.2024）；笹谷町（1♀, 21.V.2024）；末町（1♀, 19.V.2022）。 越前市：白崎町（1♀, 14.X.2020）。

ヒラズゲンセイ

【文献記録】 おおい町：大島（斎藤ほか，2023）

ムラサキツバメ

【文献記録】 あわら市：刈安山（石，2015）。 坂井市：丸岡町楽園 福井県総合グリーンセンター（木村ほか，2022）；三国運動公園（木村ほか，2022）；三国町黒目（梅村，2019）；木村ほか，2022）。 福井市：大宮2丁目 幾久公園（木村ほか，2022）。 敦賀市：池ノ河内湿原（岩田ほか，2022）。 高浜町：三松海水浴場（木村ほか，2022）。

* 木村ほか（2022）には越前市家久での目撃情報もあることが記されている。

【標本情報】 坂井市：三国町黒目（2♂1♀, 25.VII.2018；1♀, 15.IX.2024）

イチジクヒトリモドキ

【文献記録】 福井市：足羽山（梅村，2016, 2023）

【標本記録】 坂井市：丸岡町大森（1ex, 4.X.2024）。 福井市：足羽山（1ex, 8.X.2016；1ex, 7.X.2017）；西谷町3丁目（1ex, 5.X.2024）

* 福井市堂島町において、本道一樹氏により本種の幼虫の写真が撮影されている。

ふくいむしむし大調査！～昆虫の分布調査 in 福井～ 協力者

朝日まり、朝日正之、天池啓弥、天池雄二郎、五十川祥代、石田淳、今市紡、岩本啓己、梅田美由紀、大江勝次、大坂英樹、小川信男、奥出志都、奥出俊太郎、奥村和子、小原一輝、柏崎稔、加藤民季子、川内一憲、國久容子、栗田菜央、黒田明穂、小林篤広、斎藤寿子、坂田亜衣、坂田 紬、佐佐木典子、静谷あてな、嶋田敬介、嶋田佳也、末広泰智、陶山治宏、掃部恵里、高島直子、高田昂美、滝川真澄、田中和彦、玉木由紀夫、津川竹夫、辻 善宏、辻岡誠啓、津田智美、角井 享、出口翔太、寺坂ユミコ、時岡昭浩、中田真治、中野 哲、中野 光、西仁司、長谷川 敬、林和徳、伴紀好、坂東美紀、東 承助、平城岸雄、日高功士郎、藤井康子、藤本尚子、古川達也、松田一巳、松田隆喜、水野奏太郎、水野友紀子、宮嶋陽介、宮田凌聖、村山友美、森 義一、八木正邦、八木千才、谷内和真、谷内嘉和、鮎内昭男、山形直生、山岸博子、吉川心乃祐、吉野紀之

（お名前を公表してよいことの確認がとれた方のみ掲載 五十音順、敬称略）

【主な参考文献】

石谷正宇, 2008. コルリアトキリゴミムシの生態 (甲虫目: オサムシ科). 昆虫と自然, 43(12): 24-26.
市川顕彦, 2017. 福井県の直翅類の記録. ぱったりぎす, (159): 14-17.
市川顕彦・河合正人・富永修・伊藤ふくお・赤いはねのオンブバッタ調査会, 2013. アカハネオンブバッタを探しています. Nature Study 59(1): 5-6.
一瀬政人, 2021. 京都府綾部市, 福井市高浜町でマツヘリカメムシを採集. 月刊むし, (610): 52-53.
井上大成・石井実編, 2016. チョウの分布拡大. 北隆館.
岩佐康平, 2022. 福井市足羽山におけるホソハシハミョウの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (69): 79-80.
岩田朋文・川上紳一・梅村信哉, 2022. 敦賀市にてムラサキツバメを撮影. 福井市自然史博物館研究報告, (69): 91-92.
梅村信哉, 2010. 福井県内の異なる森林環境におけるハムシ類の多様性と群集構造の季節変化. 福井市自然史博物館研究報告, (57): 61-68.
梅村信哉, 2014. 福井市米町と越前町細野におけるハムシ群集の種多様性と季節変動. 福井市自然史博物館研究報告, (61): 47-56.
梅村信哉, 2015. 福井市足羽山におけるハムシ群集の多様性と季節消長. 福井市自然史博物館研究報告, (62): 53-58.
梅村信哉, 2016. 足羽山におけるイチジクヒトリモドキの採集記録. 福井市自然史博物館研究報告, (63): 81-82.
梅村信哉, 2018. 福井市足羽山におけるトウキョウヒメハシハミョウ *Cylindrela kaleea yedoensis* (Kano) の採集記録. 福井市自然史博物館研究報告, (65): 83-84.
梅村信哉, 2020. 福井県におけるアワダチソウゲンバイとプラタナスゲンバイの記録. Ciconia, 23: 43-46.
梅村信哉, 2023. 足羽山の昆虫観察ガイドブック. 福井市自然史博物館.
梅村信哉・伊藤勝幸・井上美代子・源野みね子・桜井知栄子, 2013. あわら市吉崎におけるシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の初記録. 福井市自然史博物館研究報告, (60): 67-68.
梅村信哉・伊藤勝幸・井上美代子・斎藤寿子・櫻井知栄子, 2017. 福井県におけるシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の分布拡大状況. 福井市自然史博物館研究報告, (64): 89-92.
梅村信哉・利田悠真, 2020. 福井市内におけるキマダラカメムシの採集記録. Ciconia, 23: 39-40.
梅村信哉・小寺由馬, 2023. 福井市足羽山におけるムネアカハラヒロカマキリの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (70): 81-82.
大宮正太郎, 2015. 2015年の福井県におけるシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White) の記録. 福井市自然史博物館研究報告, (62): 83-84.
奥野政裕, 2023. 永平寺町 (松岡地区) でタイワンタケクマバチの営巣場所を発見. あられがこ, (60): 2-3.
尾園 暁, 2014. ハムシハンドブック. 文一総合出版.
神尾大地, 2023. 福井県及び石川県におけるシタベニハゴロモの分布状況. とっくりばち, (91): 5-6.
上地健流, 2022. 徳島県におけるアカハネオンブバッタの初記録. Niche Life 9: 19-20.
神吉正雄, 2019. アカハネオンブバッタとオンブバッタの生息状況 (1)ー芦屋市・西宮市・宝塚市南西部についてー. きべりはむし 41(2): 16-22.
川上 靖, 2012. 外来種ウスグモズ (コオロギ亜目ヒバリモドキ科) の鳥取県における記録と分布拡大. 山陰自然史研究, (8): 33-34.
環境省・農林水産省, 2021. 外来生物法案内リーフレット
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/01_gaimi_ippan_r.pdf
木村富至・石雅和・浅野裕治, 2022. 福井県でのムラサキツバメの記録と分布調査報告. Butterfly Science, (24): 59-66.
五箇公一監修・ネイチャー & サイエンス編著, 2016. 見える知るかんがえるずかん 外来生物ずかん. ほるぷ出版.
斎藤昌弘・小泉博美・梅村信哉, 2023. 福井県におけるヒラズゲンセイの初記録. 福井市自然史博物館研究報告, (70): 31-32.
嶋田敬介, 2016. 福井県坂井市でシタベニハゴロモを確認. とっくりばち, (84): P25.
嶋田敬介・福富宏和・齊木亮太・須田将崇・富沢 章, 2015. 石川県および福井県におけるシタベニハゴロモの採集記録. とっくりばち, (83): 2-3.
下野谷豊一, 2004. 外来種 2 種を含む福井県産甲虫の分布記録. 福井市自然史博物館研究報告, (51): 31-35.
下野谷豊一・瀬戸靖夫・香川正行・松本健一・藤丸陽子・梅村信哉, 2009. 足羽川稲津橋周辺の生物相についてー福井市自然史博物館友の会「足羽川の生きもの調べ」よりー. 福井市自然史博物館研究報告, (56): 55-64.
初宿成彦, 2007. ミニガイド No.22 大阪のハシハミョウ. 大阪市立自然史博物館.
鈴木邦夫・中村大樹, 1999. 帰化昆虫ブタクサハムシ福井・石川両県にも侵入. 福井虫報, (25): 5-6.
石雅和, 2015. 福井県でムラサキツバメを採集. 月刊むし, (527): P55.
夢田晃一郎, 2021. 敦賀市赤崎におけるシタベニハゴロモの初記録. 福井市自然史博物館研究報告, (68): 101-102.
田笠正・黒川秀吉, 2017. タイワンタケクマバチ福井にむむ (1). つねきばち, (31): 31-44.
辻 雄介・近藤英文, 2024. 徳島県におけるコルリアトキリゴミムシの初記録. 徳島県立博物館研究報告, (34): 81-82.
積木久明編, 2021. 地球温暖化と南方性害虫. 北隆館.
日本生態学会編, 2002. 外来種/ハンドブック. 地人書館.
福井県安全環境部自然環境課, 2014. 外来生物ハンドブック. 福井県.
藤野勇馬・岩崎 拓・市川顕彦, 2010. 福井県敦賀市でハビロカマキリ属不明種の成虫と卵囊を採集. 昆虫と自然, 45 (5): 32-34.
保科英人・梅村信哉・渡部晃平, 2023. 福井県におけるウスグモズの追加記録. Ciconia, 26: P67.
町田龍一郎監修・日本直翅類学会編, 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 学研教育出版.
松田隆喜, 2010. 第 70 回特別展「川のお魚大集合! 福井の淡水魚ギョッ展」解説書. 福井の淡水魚図鑑. 福井市自然史博物館.
松本史樹郎, 2014a. 近畿地方に侵入したアカハネオンブバッタ. Nature Study 60(5): P9.
松本史樹郎, 2014b. アカハネオンブバッタの分布調査のページ. <https://attractormorphajimdofree.com/> (2024 年 11 月 2 日閲覧)
松山富夫・室田忠男, 2021. 勝山市荒土町でタイワンタケクマバチの営巣場所を発見. あられがこ, (59): 18-19.
室田忠男, 2017. タイワンタケクマバチ福井県にも侵入する (1). あられがこ, (55): 8-18.
室田忠男, 2018. タイワンタケクマバチ福井県に侵入する (2). あられがこ, (56): 9-15.
室田忠男, 2019. タイワンタケクマバチ福井県に侵入する (3). あられがこ, (57): 8-18.
室田忠男, 2020. タイワンタケクマバチ福井県に侵入する (4). あられがこ, (58): 1-10.
室田忠男, 2021. タイワンタケクマバチ福井県に侵入する (5). あられがこ, (59): 4-17.
室田忠男, 2023. タイワンタケクマバチ福井県に侵入する (6). あられがこ, (60): 4-8.
室田忠男・笹本功二, 2020. タイワンタケクマバチ 鯖江市中野町で生息が確認される. あられがこ, (58): 11-13.

【自然の移り変わりを記録し伝えていく ～あとがきに代えて～】

福井市自然史博物館に着任して以来、外来種の昆虫の県内への侵入や急速な分布拡大を目の当たりにしてきました。例えば、2013 年にあわら市で定着が確認されたシタベニハゴロモは、わずか 8 年の間に嶺北地方のほぼ全域に分布を拡大し、2021 年には敦賀市内への侵入が報告されました。また、2017 年に福井市内で初めて確認されたタイワンタケクマバチは、研究者の精力的な調査により、2023 年時点で県内のすべての市町に分布を拡大していることが明らかになっています。さらに、2019 年に福井市内で確認されたキマダラカメムシは、今では市内でふつうに見られるようになり、県内各地に分布を拡大していることが、今回実施した「ふくいむしむし大調査! ～昆虫の分布調査 in 福井」の結果からも窺われます。

外来種のすべてが悪いというわけではないのですが、中には生態系や人間の生活に被害を及ぼす種類がいることも確かです。そして、一度定着して勢力を拡大した侵略的外来種を根絶することは非常に困難だとされています。そのため、侵略的外来種の侵入をいち早く把握し、初期段階で防除を行っていくことが必要です。また、知らず知らずのうちに外来種を拡げてしまわないように、私たち一人一人が外来種やそれが引き起こす問題にきちんとした知識を持つことが大切だと思います。

今回、笹川科学研究助成を活用して昆虫の市民参加型の調査を実施しました。この調査では、私一人では調査の行き届かない場所での生息情報を、市民の方の力を借りて把握することを目的としました。同時に、調査に参加していただくことで、市民に外来種問題や地球温暖化等に伴う暖地性昆虫の分布拡大について関心を持っていただくことも目的としました。市民参加調査の成果を盛り込んだこのガイドブックが、一人でも多くの人が外来種やそれが引き起こす環境問題について関心を持つきっかけとなることを願っています。そして、環境の変化に伴い県内から消えゆく昆虫、新たに県内に侵入して分布を拡大する昆虫たちの動態を今後も記録し続け、市民に伝えていくことが、地方の自然史博物館に勤務する自分に課せられた役割の一つなのだと思います。

ふくいの外来昆虫ハンドブック

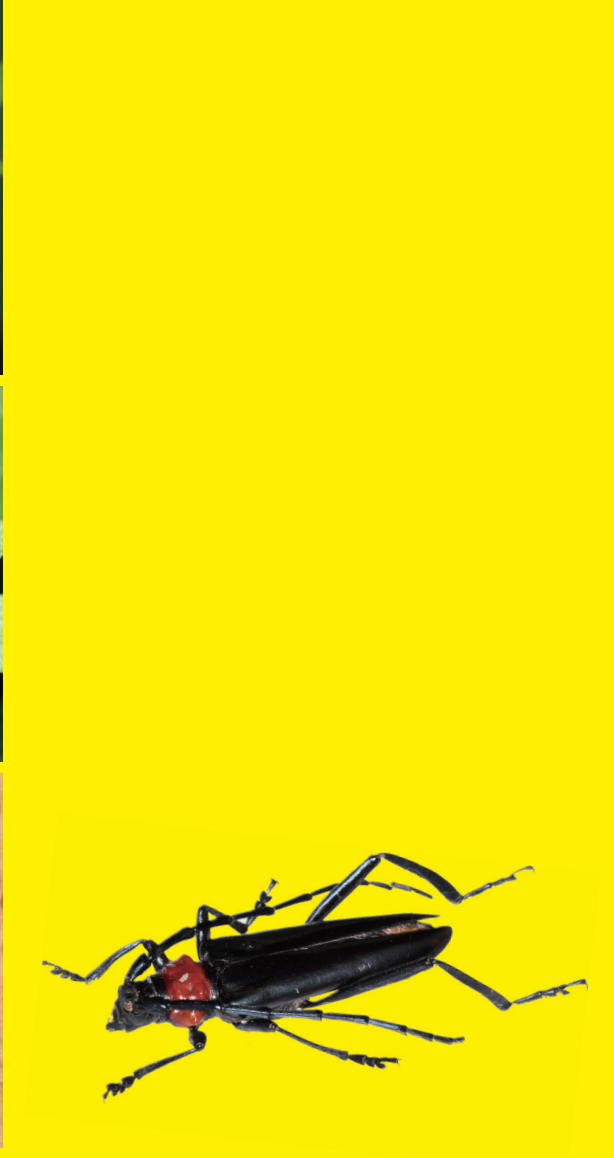
編集・執筆・写真および動画撮影：梅村信哉

協力：伊藤勝幸、猪尾隆之介、岩田朋文、小寺由馬、金田俊晃、木村富至、桐山 哲、窪田有貴、小泉博美、斎藤寿子、柴田あかり、鈴木 聡、武澤理仁、立松拓樹、田野靖忠、辻岡誠啓、出口翔大、土田ひとみ、富田修一、南場恭子、野村有美子、八田真毅、星野誠司、本道一樹、松田隆喜、八木正邦、柳澤賢一、山岸登美子、山本土郎
「ふくいむしむし大調査!」にご協力いただいた皆さま
富山市科学博物館、福井県エネルギー環境部自然環境課、
福井県自然観察指導員の会、福井市順化小学校 1 年生の皆さん
(個人、機関別 敬称略、五十音順)

本書の校正にご協力いただいた当館のスタッフ各氏 (末政 薫、田中伸卓、藤田晴美、坂森貴生、有馬達也、柴田あかり、藤野勇馬) にも御礼申し上げます。

発行：福井市自然史博物館 / 発行年月日：2025 年 1 月 20 日
印刷：白崎印刷株式会社

*この冊子は、日本科学協会の笹川科学研究助成による助成を受けて刊行しました (研究番号：2024-8009)



Fukui City Museum of Natural History

* この冊子は、2024 年度笹川科学研究助成（研究番号：2024-8009）により刊行したものです